

コンソーシアムの具体的取組 についての意見交換

令和5年11月20日
震災伝承みやぎコンソーシアム事務局

前回のまとめ（佐藤准教授より）

今日（※前回開催日）の“目標”案（会員のアイディアの集合）

- コンソーシアムに集まるみなさんの「共通認識（かさ）」
- このかさのもとで、活発な支え合いの活動を行う
- その場が震災伝承みやぎコンソーシアム

希望・アイディア

柱 → 目標 → コンソ取組

現場の実情・課題

（参考）東日本大震災の記憶・教訓の伝承に関する基本方針（2021.4策定）

■伝承に関する3つの柱

- ① 震災の記憶・経験の蓄積と発信
- ② 伝承や防災・減災に関する人材の育成と防災教育の推進
- ③ 多様な主体の連携による伝承の推進

■基本理念

東日本大震災の経験や復旧・復興の過程、そこからの教訓を
現在（いま）、そして未来に伝え続ける。
一人ひとりがかけがえのない大切な命を守り、
災害時に「自らの命を守る行動」が実行できる社会をつくる。

目標（事務局とりまとめ案）に対する修正案

- ① 語り継ぐべき経験・教訓の整理と幅広い層に向けた強力な情報発信の仕組の構築
- ② 様々な手法・主体による伝承活動が実践できる環境づくりと防災・減災推進の機運醸成
- ③ 持続的な震災伝承に向けた産学官民相互（**会員間の情報共有**）が、それぞれの強みを活かして連携する取組の創造

↓

- ① 語り継ぐべき経験・教訓の整理
- ② 幅広い層に向けた強力な情報発信の仕組の構築
- ③ 様々な手法・主体による伝承活動が実践できる環境づくり
- ④ 防災・減災推進の機運醸成
- ⑤ 持続的な震災伝承に向けた産学官民相互（**会員間の情報共有**）が、それぞれの強みを活かして連携する取組の創造

コンソーシアムの取組
＝プロジェクト（部活？）

気仙沼市東日本大震災遺構・伝承館におけるプロジェクトチームの概要

【設立の経緯】

- ・ R3.3のメモリアルイベントにおいて、「伝承館をより良い施設にする」ためのワークショップ（参加者：市民、若者、関係者）を実施
- ・ 「『地域を歩く』語り部プログラムの開発提供」や「若者チームによるネットメディア発信」など、12のプロジェクトが立ち上がった
→そのうちの7プロジェクトに重点を絞って活動中

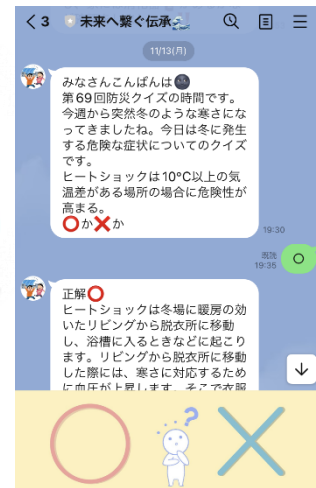
【体制】

- ・ リーダー（プロジェクトメンバー内で決定）、メンバー、伝承館スタッフ
- ・ 各PT 5～10人程度

【運営（進め方）】

- ・ 3年間で目指せる目標を第1次プロジェクトとして活動
- ・ 活動費は、けせんぬま震災伝承ネットワークで負担
(伝承館のイベントの展示関係については伝承館が負担)

若者チームによるネットメディア発信PT →



気仙沼市東日本大震災遺構・伝承館におけるプロジェクトチームの概要

【気仙沼の取組の中でコンソーシアムでも取り入れたいPOINT】

- 大命題（“伝承館をより良い施設にするために”）を設定し、多様な主体が自主的に、それぞれの視点からアイデアを出し合う仕組み
- 期間を設定し、その間に達成する“目標”を定め、PT毎にその実現のために必要な活動を実施している取組
- 各PTに事務局スタッフが入り、必要なサポート行っている体制



“みやぎの震災伝承”をより良くしていくための取組にもこの仕組みを採用できないか！？

★ここからは、
気仙沼市東日本大震災遺構・伝承館のプロジェクトチームのアドバイザーを担ってきた東北大の佐藤翔輔先生をコーディネーターに、今後の取組について皆で考えていきましょう！

部会の設置

前回提案のあった5つの目標（プロジェクト）から、具体的取組として、以下の3つの部会を立ち上げ。

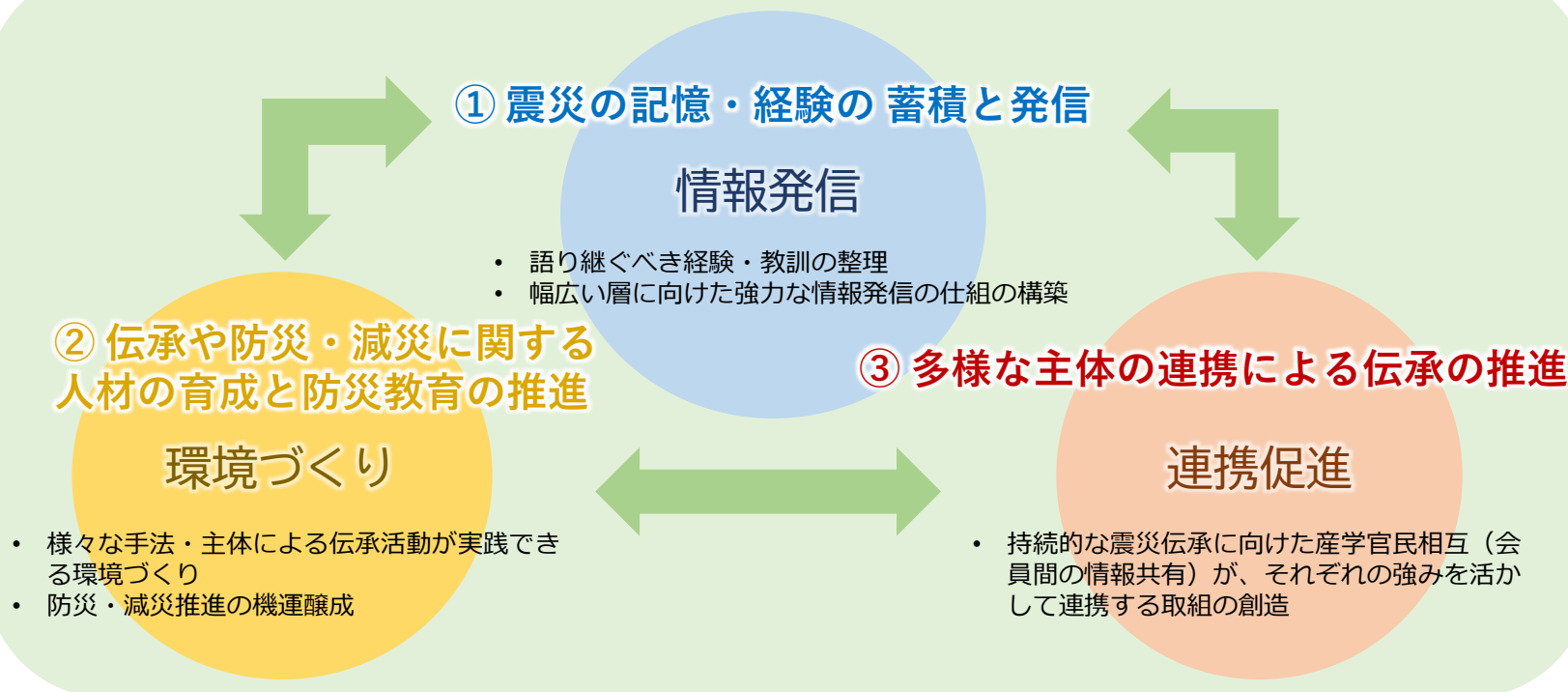
- ① 幅広い層に向けた情報発信体制の構築
- ② 様々な手法・主体による伝承活動が実践できる環境づくり
- ③ 持続的な震災伝承に向けた産学官民相互（会員間の情報共有）が、それぞれの強みを活かして連携する取組の創造

※プロジェクト名は活動の中で必要に応じて変更

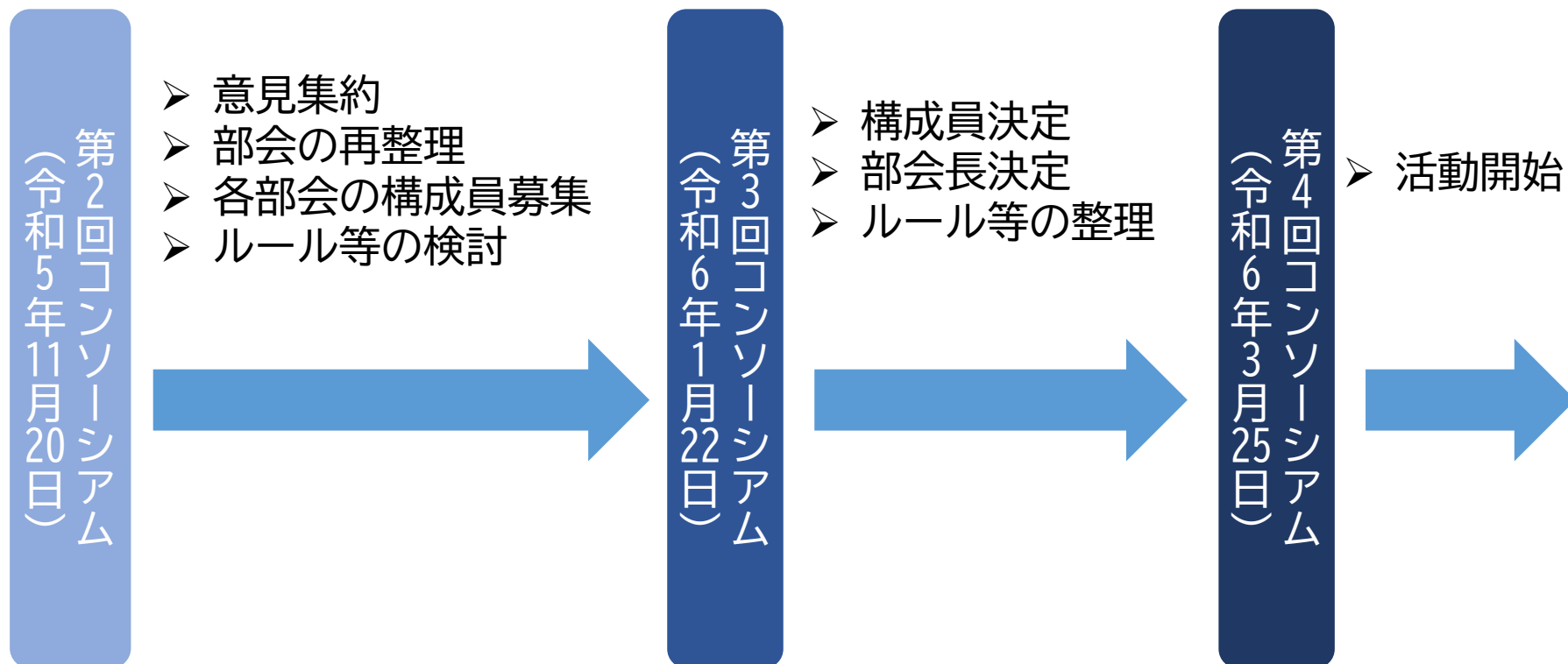
部会の概要

- 会員の手上げ式によって構成員を募集し、部会長を選任
- 会員による自主的な運営を原則とする（事務局がフォロー）
- 各部会がテーマごとに活動を実施し、会員の連携によって持続可能な震災伝承を推進する

震災伝承みやぎコンソーシアム



今後の進め方



柱と目標の対応関係

- ① 震災の記憶・経験の蓄積と発信（情報発信）
 - 目標1：語り継ぐべき経験・教訓の整理
 - 目標2：幅広い層に向けた強力な情報発信の仕組の構築
- ② 伝承や防災・減災に関する人材の育成と防災教育の推進（環境づくり）
 - 目標3：様々な手法・主体による伝承活動が実践できる環境づくり
 - 目標4：防災・減災推進の機運醸成
- ③ 多様な主体の連携による伝承の推進（連携促進）
 - 目標5：持続的な震災伝承に向けた産学官民相互（会員間の情報共有）が、それぞれの強みを活かして連携する取組の創造

目標と部活（まず）

- 目標1：語り継ぐべき経験・教訓の整理
- 目標2：幅広い層に向けた強力な情報発信の仕組の構築★
- 目標3：様々な手法・主体による伝承活動が実践できる環境づくり★
- 目標4：防災・減災推進の機運醸成
- 目標5：持続的な震災伝承に向けた産学官民相互（会員間の情報共有）が、それぞれの強みを活かして連携する取組の創造★